

V228b 南極大陸内陸高原・ドームふじ基地で観測された全天カメラの画像解析
小山拓也、市川隆（東北大学）、Michael C. B. Ashley（UNSW）、高遠徳尚（ハワイ観測所）、
沖田博文（東北大学）

南極ドームふじ基地は赤外線サブミリ、テラヘルツ帯にかけて地上で最も条件の優れた観測場所として考えられている。2011年の第52次日本南極地域観測隊として高遠徳尚（ハワイ観測所）と沖田博文（東北大）が南極大陸内陸高原に位置するドームふじ基地（南緯77°19′、標高3810m）に赴き、サイト調査等を実施した。その1つとして、HR-CAM（High Resolution CAMera）と呼ばれる全天カメラを設置し観測を始めた。また、2013年に第53次/54次隊でドームふじ基地において夏期観測をすると共に、気象データやHR-CAMの観測データを回収し、日本に持ち帰ることができた。本講演では、2011年1月から2011年7月に撮影したHR-CAMのrawデータを用いた解析手法、また解析結果をドームふじ基地のサイト調査と関連付けて報告する。